

4. 農 学 部

(1) 学科のアドミッション・ポリシー

学科	学科のアドミッション・ポリシー
植物生産環境科学科	<p>植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識、植物生産、生産環境、並びに環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識、専門分野に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力を身に付けた人材の育成を目標としています。</p>
	<p>1. 求める学生像</p>
	<p>植物生産環境科学科では、安全・高品質な農・園芸作物の安定供給に対して熱意を持って取り組み（主体性）、自然現象に対する強い知的好奇心と自然環境に配慮した農業生産に対する関心（学問への関心）を有する人、実験や観察において深く考察（思考力）し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科の基礎的学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を地域・社会に還元することができ（協調性）、国際的な視野と責任感を有する人を求めています。</p>
	<p>2. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。</p> <p>2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。</p> <p>3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文、出願書類によって、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解を評価します。</p> <p>4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解を評価します。</p> <p>5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。</p>
森林緑地環境科学科	<p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p>
	<p>数学、理科、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。</p>
	<p>森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。</p>
	<p>1. 求める学生像</p>
	<p>森林緑地環境科学科では、森林・緑地の環境保全と生態系の修復、森林資源や水資源の循環的・安定的利用に対して熱意を持って取り組み（主体性）、森林・緑地に関連する自然科学と社会現象に幅広い興味や関心（学問への関心）を有し、実験や観察において深く考察（思考力）し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科に関する基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元する情熱と責任感を持つ（協調性）人材を求めています。</p>
<p>2. 入学者選抜の基本方針</p>	
<p>1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。</p> <p>2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。</p> <p>3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文によって、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。</p>	

学科	学科のアドミッション・ポリシー
森林緑地 環境科 学 科	<p>4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解、思考力を評価します。</p> <p>5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。</p>
	<p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p>
	<p>理科、数学、外国語など、高等学校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、勉学において自ら興味を深め課題を発見する姿勢、多様な意見を聞きながら課題解決を図る態度を身に付けておくことが望ましい。</p>
応用生物 科 学 科	<p>応用生物科学科では、農学に関する基礎知識、数学及び自然科学に関する基礎知識、応用生物学に関する知識、技術者の社会的責任、制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。</p>
	<p>1. 求める学生像</p>
	<p>応用生物科学科ではバイオサイエンス分野の先端技術の獲得、食品機能の探求や環境保全に対して熱意を持って取り組み（主体性）、動植物や微生物の機能や利用に対する深い関心（学問への関心）を有し、実験結果や観察内容を深く考察し（思考力）、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる化学や生物、英語に関する学力を有する人（知識・理解）、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を応用生物学分野の技術者として社会に還元することのできる人材（協調性）を求めています。</p>
	<p>2. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学習で必要となる理科についての発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。</p> <p>2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、知識・理解、思考力、学問への関心、協調性について評価します。 書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、主体性、知識・理解、学問への関心、表現力、協調性について評価します。</p> <p>3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、小論文、面接によって、思考力、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、協調性を評価します。</p> <p>4) 社会人入試 社会人に対し、面接、書類審査によって、知識・理解、主体性、協調性、思考力、表現力を評価します。</p> <p>5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接によって、知識・理解、思考力、表現力、協調性、主体性を評価します。</p>
	<p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p>
<p>理科（特に化学・生物）、数学、英語、国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。</p>	
海洋生物 環境学 科	<p>海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力、環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する力、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。</p>
	<p>1. 求める学生像</p>
	<p>海洋生物環境学科では、海洋生物や水圏環境の保全、水域生物の生産・利活用、水族の生理機能に深い興味（学問への関心）を有し、海洋環境と生物生産の諸問題の解決に熱意をもって取り組み（主体性）、実験や観察において深く考察（思考力）し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や自然科学に関する基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる（協調性）人材を求めています。</p>
	<p>2. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。</p> <p>2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では、表現力、主体性、学問への関心及び思考力を評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解を評価します。</p> <p>3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力及び協調性を評価します。</p>

学科	学科のアドミッション・ポリシー
海洋生物 環境学科	<p>4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力及び協調性を評価します。</p> <p>5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、思考力及び協調性を評価します。</p>
	<p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p>
	<p>高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性、表現力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。</p>
畜産草地 科学科	<p>畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境及び食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。</p>
	<p>1. 求める学生像</p>
	<p>畜産草地科学科では、資源循環、環境の保全、家畜の福祉などに配慮した持続的な畜産業の構築に対して熱意（主体性）を持って取り組み、動植物に対する幅広い興味や関心（学問への関心）を有し、実験や観察において深く考察する能力（思考力）を有し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる資質（協調性）を有する人材を求めています。</p>
	<p>2. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。</p>
	<p>2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心性を評価します。</p>
	<p>3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文によって、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。</p> <p>4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解、思考力を評価します。</p> <p>5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。</p>
<p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p>	
<p>生物、化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。</p>	
獣医学科	<p>獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。</p>
	<p>1. 求める学生像</p>
	<p>獣医学科では大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科、数学、語学に関する基礎学力を持ち（知識・理解）、自然科学に対する幅広い興味や関心を有し（学問への関心）、ヒトと動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識の修得に対して主体的に取り組むことができる（主体性）人材を求めています。</p>
	<p>2. 入学者選抜の基本方針</p>
	<p>1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解を総合的に評価します。</p> <p>2) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文によって、知識・理解、主体性、学問への関心を評価します。</p>
<p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p>	
<p>試験で課す理科、数学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。</p>	

(2) グローバル人材育成学部教育プログラムのアドミッション・ポリシー

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、農学に関する基礎知識、生物資源及びバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術、専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力、国内外の諸課題に対応できる国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、農学分野に係る諸問題解決能力の修得に意欲的に取り組み（主体性）、生物資源とバイオテクノロジー分野に対する強い興味や関心（学問への関心）を有し、大学課程において効率よく質の高い学習が可能な論理性と考察力（思考力）を持ち、英語でのコミュニケーション能力（表現力）と大学での学修の基盤となる幅広い知識と基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる（協調性）人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

外国人留学生に対して、書類選考と面接試験によって多様な能力を総合的に判断します。書類審査では高等学校の成績証明書、推薦書、英語能力試験結果、志望理由書、自己アピール文書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。

面接においても知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、勉学において自ら興味を深め課題を発見する姿勢、多様な意見を聞きながら課題解決を図る態度など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。